

平成30年蔵王町議会定例会3月会議

町 長 施 政 方 針

蔵 王 町

(平成30年2月28日)

平成30年蔵王町議会定例会3月会議が開催されるにあたり、ご審議をいただきます平成30年度一般会計予算をはじめ、各議案の説明に先立ち、私の町政運営に対する基本方針を申し述べ、議員の皆様並びに町民の皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

## 1 はじめに

私は、町長として4期目の2年目を迎えていますが、改めて初心にかえり、町民の皆様への負託に応えて、「安全・安心、住んで良かった」と思えるまちづくりへの決意を新たに、平成30年度当初予算を編成して、この度の定例会を迎えております。

蔵王山の火山活動については、1月30日14時38分、仙台管区气象台から「噴火警戒レベル2（火口周辺規制）への引き上げが発表され、これを受け、本町では想定火口域（御釜周辺）から概ね1.2kmの範囲の立ち入り制限をしています。今後も火山活動を注視しながら、町内外へ正しい情報を発信していくと共に、万が一噴火が発生した場合に備えた準備体制をしっかりと築き、町民や観光客の安全確保に努めてまいります。

また、まもなく東日本大震災から7年目の「3・11」を迎えようとしていますが、被災された皆様が一日でも早く元の生活に戻られるよう、なお一層の復興と進展を願うものであります。本町は沿岸被災地に職員を派遣しており、山元町・南三陸町への派

遣が今年度で終了することから、平成30年度から新たに女川町へ職員派遣を行うことにしております。

(社会経済情勢と町の基本的な考え)

さて、本町を取り巻く環境をみると、国内の経済状況は、内閣府の1月経済報告では「景気は緩やかに回復しており、先行きは雇用・所得環境の改善が続く中で、緩やかな回復が続くことが期待される」と発表されています。

また、国政においては、第196回国会で安倍総理の施政方針演説が行われ、その中の「働き方改革」で、だれもが能力を発揮できる柔軟な労働制度へ、抜本的な改革が進められるようであります。「地方創生」においては、林業改革に挑戦し、農林水産業全般にわたって改革を進め、若者が夢や希望の持てる「農林水産新時代」を築こうとしています。

さらに、「観光立国」においては、観光立国は地方創生の起爆剤と捉え、「世界中から観光客を集める滞在型観光を推進すること」などが、明言されたところであります。

最近では、世界的に株価が大きく乱高下するなど、経済の不安定な状況が続いているようではありますが、2月9日から開催された平昌（ピョンチャン）オリンピックでは、日本選手の活躍する姿に感動し、明るい話題が続いたところでもあります。

今後、このような国の施策が着実に進められ、雇用や所得環境が改善され、本町においても景気回復が十分に実感でき、町民福祉の向上につながることを期待するところであります。

今の日本社会は、少子高齢化、人口減少が急速に進む中、大きな転換期を迎えていると言えます。このような時代だからこそ、活力あるまちづくりを進め、町民の皆様と行政が一つになり、限られた財源を効率的にかつ計画的に使いながら、各種施策を進めていく必要があります。そして、町民の安全・安心と、住んで良かったと言えるまちづくりを進めていくことが重要であると考えております。

#### (農業と観光の町)

本町は、これまでも、基幹産業である農業と観光を柱にしてまちづくりを進めてきましたが、農業をはじめとする各種産業において、就業者数の減少と高齢化が進んでおり、担い手の確保が喫緊の課題であります。

これからは、経営が成り立つ農業、魅力ある商工業など、蔵王の知名度を生かした観光まちづくりやさらなる物産ブランドの振興、企業誘致などの促進に一層努めていく必要があると考えております。

地方創生においては、人口減少が進む中、交流人口の拡大が重要な施策であります。地域の活性化のためには、交流人口を増やし

外貨を稼ぐことで、まちに活気を出し、元気なまち、賑わいのあるまちを目指すことであります。

そのためには、遠刈田温泉と蔵王の自然を活用した観光を充実させて、地域資源を生かした体験型・交流型観光の推進、スポーツや食などに関連したイベント開催による交流人口の拡大、そして、インバウンドの誘致に力を入れながら、これらを多彩に組み合わせた滞在型メニューの整備を行い、町にお金がおちる仕組みを充実させていきたいと考えております。

しかしながら、今年1月の蔵王山火口周辺規制の発表に伴い、観光客の入り込みの減少がみられており、更に風評被害が拡大しないよう対策を講じる必要があります。また、今後予定している春の観光イベントについては、開催の見通しが立たなくなっているところでもあります。このような状況を打開するために、国や県をはじめ、関係機関と連携しながら対応してまいりたいと考えております。

## 2 第五次長期総合計画「ずっと愛にあふれるオンリーワンなまち・ざおう」

さて、平成30年度は、今後のまちづくりの指針となる10年間の第五次蔵王町長期総合計画がスタートする節目の年であります。

計画策定においては、第四次計画の取り組みを評価し、課題を整理しながら策定したもので、町民主体のまちづくりとなるよう、町民の皆様からの意見を反映したところであります。

この計画の推進にあたっては、「町民が主役・地域が主体のまちづくり」を進めるとともに、社会情勢や将来の目指すべき本町の姿を踏まえながら、地方創生で掲げた「蔵王町まち・ひと・しごと創生総合戦略」と絡めながら、町民と行政が一丸となって、より良いまちづくりのために取り組んでいかなければなりません。

第五次計画では、本町の豊かな自然を愛する心、人を愛する心、郷土を愛する心で、魅力あるまちづくりのために、「ずっと愛にあふれるオンリーワンなまち・ざおう」を未来像として、目指してまいります。

そして、未来像の実現のために、「健やかなまちづくり」、「学び楽しむまちづくり」、「美しい快適なまちづくり」、「活気あるまちづくり」、「共に創るまちづくり」の5つの基本方針と、重点的に取り組む3つの重点戦略の項目を掲げて進めてまいります。

#### （重点戦略1 ずっと住み続けたい快適な環境づくり）

平成30年度から取り組む重点戦略の1つ目、「ずっと住み続けたい快適な環境づくり」では、教育環境の充実と国際化に対応した「人」づくりや、快適なまちづくりを目指してまいります。

英語教育を推進するため、昨年12月に英語特区の認定を受け、小学校低学年からの英語教育に取り組み、外国語指導助手（ALT）を増員するほか、国際交流員（CIR）を配置して進めてまいります。

国際交流の促進のため、2020年東京オリンピック・パラリンピックのホストタウンとして、茨城県常陸大宮市と連携しながら、平成30年度から、パラオ共和国選手の事前合宿を受入れてまいります。

また、パラオ共和国と蔵王町の子ども達が相互に訪問交流できるような環境を整え、パラオの子ども達には冬の蔵王で自然体験をしてもらい、蔵王の子ども達にはパラオの美しい海での自然体験をしながら、一層の友好関係を構築してまいります。

少子化に対応した学校教育環境の整備のために、中学校の統合については、可能な限り速やかな時期に新設校の1校に統合することを決定しておりますので、統合準備委員会などを組織して場所の選定に向けて検討を進めてまいります。

移住定住を促進するため、移住定住者の経済的支援として、新規就農者に対する町独自の補助を継続するほか、移住定住のため住宅を取得する人への補助制度を始めるなど、対策を強化してまいります。

安全で快適な道路整備のため、災害時の避難経路の確保を図るほか、町道湯口線や下別当1号線などの道路改良事業に取り組み、利便性の向上を図ってまいります。

### (重点戦略2 愛にあふれるふるさとづくり)

次に、重点戦略の2つ目、「愛にあふれるふるさとづくり」では、町民が愛情あふれる笑顔に満ちた家庭を築くことが理想であり、町に誇りと愛着が持てる「ふるさとづくり」を目指してまいります。

子育て支援のため、今年度開設した「子育て支援センター」を活用し、育児相談や子育てサークルの育成支援、情報提供などの事業を進めるほか、幼稚園の3年保育・預り保育の検討やこども園の整備促進に向けて、関係課での検討を進めてまいります。

子育て家庭を応援し、子どもの健やかな育成を図るため、子ども医療費助成制度やインフルエンザ予防接種助成、すこやか養育助成などの町独自施策の継続により、経済的支援に努めてまいります。

子育て支援の充実は、まち・ひと・しごと創生総合戦略の基本目標でもあり、移住定住の流れを生み出す要因にもなりますので、さらなる充実に向けて取り組んでまいります。

### (重点戦略3 オンリーワンな魅力づくり)



次に、重点戦略の3つ目、「オンリーワンな魅力づくり」では、蔵王の雄大な自然や多種多様な産業は誇れるものであり、町独自の魅力を磨き上げ、オンリーワンな魅力あるまちを目指してまいります。

多面的な農業の振興のため、ブランド化と地産地消を推進してまいります。農畜産物から一定基準以上の品質を備えたものを「蔵王ブランド」として認定する制度を確立し、生産意欲の向上と地域経済の活性化を図ります。また、昨年に蔵王梨のベトナム輸出販売を行ったところであり、今後も積極的に販売促進を進めてまいりたいと考えております。

地産地消の推進に向けて、「地産地消・6次産業化推進協議会」において、農産物の地域内消費拡大と収入の確保を図り、地域活性につなげてまいります。

新規就農者の確保・育成は、本町の農業を存続するうえで重要な課題であり、国の補助制度を活用すると共に、町独自の補助制度を継続し、後継者の確保を図ってまいります。

また、農地利用に関する情報収集と農地の集積・集約化を推進し、効率的かつ安定的な経営に向けた認定農業者などの担い手育成や組織化など、支援に取り組んでまいります。

観光まちづくりの強化のために、インバウンド（訪日外国人観

光客) の誘致を推進してまいります。

誘客を図る施策として、台湾や中国等へ職員等を派遣して商談会等を行い、本町の観光資源を広くPRすると共に、交通アクセスを含めたインバウンドの受入れ体制の整備を図り、観光客のさらなる増加につなげたいと考えております。

このように、未来像の実現に向けて、他の事業を牽引する先導的な施策として、重点的に進めてまいります。

本町は、国の東北財務局と「地域活性化に関する包括連携協定」や、町内各金融機関と「地方創生に係る協定」などを締結しておりますので、関係機関とのネットワークをより強化し、連携を深めながら、より良い施策が展開できるよう進めてまいります。

#### (防災・減災対策)

次に、防災・減災対策については、蔵王山の噴火警戒レベル2(火口周辺規制)の発表により、警戒範囲や防災対応をいち早くお知らせしておりますが、災害発生時においては、町民はもちろん観光客や登山客の安全対策、警戒避難対策の充実が求められているところでもありますので、避難計画に基づく具体的な行動計画の確立と避難訓練の実施など体制整備に向けて取り組んでまいります。

新年度においても、防災サイレン・スピーカー整備を進め、役場庁舎からの遠隔操作により情報発信を行うほか、避難道の確

保・整備や自主防災組織の設立支援などを強化するよう取り組んでまいりたいと考えております。

また、昨年9月、台風による暴風等の被害が起きておりますが、町民の安全・安心を確保し、生命と財産を守るために、今後も各種防災・減災対策に力を入れてまいります。

### 3 財政運営の見通し

次に、平成30年度以降の本町の財政運営について、申し上げます。

昨年の9月会議でも申し上げたとおり、本町の財政状況は、財政健全化法に定める「実質公債費比率、将来負担比率」などの指標や、地方債の現在高、基金積立額の状況などをみますと、健全財政を維持できていると実感しております。

しかしながら、今後の財政運営を考えてみますと、少子高齢化や人口減少により、町税や地方交付税などの収入が減少していくと見込まれる中、歳出では、社会保障費の自然増加に加え、公共施設の老朽化に伴う補修や更新費用の増加は避けられず、今後の財政負担が増え、財政構造の硬直化が進んでいくのではないかと考えております。

こうした状況から、今後とも町が自立して自らの道を切り開いていくために、歳入は限りある財源をできるだけ確保し、歳出は

必要最小限の費用で最大限の効果が出るよう努力しなければならないと考えております。

将来に向けて、持続可能な町政運営を実現していくためには行財政改革を推進し、社会の変化に柔軟に対応しながら行財政運営を行っていくことが必要であります。

財政運営は今後厳しさを増してまいります。が、「町民が主役、地域が主体のまちづくり」を大切にしながら、安全・安心、そして心豊かに暮らせる、健全で活力ある地域社会を、町民の皆様と行政が一緒になって作り上げていく「協働のまちづくり」を目指していくことが、私に課された大きな使命であると考えているところであります。

第五次長期総合計画の初年度を迎え、私はこのような覚悟を持って、全力で町政運営に臨む決意であります。

#### 4 新年度の施策大綱ごとの主な事業

次に、新年度における主な事業について、第五次長期総合計画に掲げる「基本方針」毎にご説明申し上げます。

健やかなまちづくり（保健・医療・福祉）
---------------------

まず、健やかなまちづくりであります。が、全ての町民が健康的で生きがいのある生活を送れるよう、保健・医療・福祉の充実を

図ってまいります。

子育て支援策として、「子育て支援センター」を活用し、育児相談・指導、子育てサークルの育成支援、情報提供など事業を進めてまいります。

また、「すこやか養育助成金」、「乳幼児紙おむつ券助成」「インフルエンザ予防接種助成」「子ども医療費無料化」などの町独自施策を継続実施してまいります。

児童館については、宮児童館クラブ室の増築工事を行い、放課後児童クラブ運営を充実させ、施設の利便性向上に努めてまいります。

高齢者や障がい者の福祉施策については、配食サービス事業、介護用品給付事業、障害者地域生活支援事業、高齢者インフルエンザ・肺炎球菌予防接種費用の一部助成などを継続して、よりきめ細かに各種サービスの提供に努めてまいります。

昨年11月に開所した地域福祉センター別館「蔵王あがらいんかふえ」を有効に活用し、介護予防教室や精神障がい者サロンなどで利用してまいります。

高齢者の自立支援や介護予防のために、生涯ピンピン教室や温泉で・い〜サービスなどの事業を継続して実施してまいりますと共に、スポーツと連携した健康づくり事業を推進しながら、町民

の健康増進につなげてまいります。

地域医療の充実に向けては、医師会、歯科医師会などと連携しながら、休日診療、救急診療の体制を維持してまいります。

### 学び楽しむまちづくり（教育・文化・スポーツ）

次に、学び楽しむまちづくりであります。子ども達が地域に愛着と誇りを持ち続け、「生きる力」を育てる教育の充実を図るため、家庭・地域・学校が連携して進めてまいります。

学校教育については、全ての子ども達の自立と社会参加を目指し、それぞれが持つ能力を最大限に伸ばす、きめ細かな教育を提供してまいります。

4月から新たな学校教育の充実を図り、ふるさと蔵王に誇りを持ちながら、グローバル化する国際社会の中で活躍できる人材育成を目指すことを目的に、保育所、幼稚園、小学校低学年など早期からの英語教育に取り組み、外国語指導助手（A L T）の増員配置や国際交流員（C I R）の配置、中学生の英語検定料の補助を行ってまいります。

また、23行政区と学校が協働して合同による防災訓練を実施し、防災・安全意識の高揚に努めてまいります。

学び支援コーディネーターによる学習支援、学校図書支援員による学校図書室の機能充実など、児童生徒の豊かな心の育成や学力向上のための取り組みを継続してまいります。

学校施設整備では、円田小学校体育館トイレ改修、遠刈田中学校体育館出入口扉改修工事などを実施し、教育環境の向上に努めてまいります。

生涯学習分野では、学校・家庭・地域が協働して子どもたちを育てる環境づくり「地域学校協働活動推進事業（ごおうっ子応援団による活動支援）」を推進してまいります。

東京オリンピック・パラリンピック競技大会におけるホストタウンについては、常陸大宮市と一緒に立ち上げた「オリパラ推進協議会」において、パラオ共和国選手の事前合宿を6月から受入れる予定であります。

パラオ共和国との交流は、平成31年1月頃に、パラオの子ども達を本町に招待し交流を深めるため、（仮称）ごおう・パラオ子ども交流実行委員会を立ち上げ、交流計画を進めてまいります。

スポーツイベントでは、10月に「三遊亭円楽杯ゲートボール交流大会」を開催するほか、スポーツの振興と交流人口の増加を図ってまいります。

東京オリンピック・パラリンピック競技大会関係では、中学2

年生を対象にJOCオリンピック教室を開催し、大会への機運を盛り上げてまいります。

## 美しい快適なまちづくり（環境・生活基盤）

次に、美しい快適なまちづくりであります。定住環境の充実を図ると共に、景観にも配慮した美しい快適なまちづくりを目指してまいります。

地球環境にも配慮した循環型地域社会の形成を目指し、住宅用太陽光発電システム設置事業補助を継続するほか、総合運動公園の照明器具LED化なども進めてまいります。

また、蔵王の自然の生い立ちやその恵みを、子ども達や地域の人達に伝えるジオパーク教室、出前講座などを継続するほか、学術的な観点から、蔵王の自然環境をPRしていくことにしております。

道路整備では、「湯口線・下別当1号線・下永線」の改良工事や、桜町線の歩道設置工事、東根大橋修繕工事、林道青麻山線舗装工事を進めるほか、町道などの維持補修を行い、安全で快適な道路の維持・整備に努めてまいります。

また、公営企業会計になりますが、水道事業で、国道4号拡幅に伴う向山地区水道管移設工事のほか、老朽化した施設更新のた



め、円田入地区水道管布設替え工事などを計画的に進めてまいります。

## 活気あるまちづくり（産業）

次に、活気あるまちづくりであります。農林水産業や観光業など各種産業が連携しながら、モノのブランド化と地域イメージのブランド化に一体的に取り組み、安定した雇用、若者から高齢者まで活躍できる社会を目指してまいります。

農業振興については、地方創生推進事業として、「地産地消・6次産業化事業」を推進し、地場製品の販路拡大・PRや町内事業者等が地場産品を調達しやすい仕組み作りなどに取り組んでまいります。

有害鳥獣対策については、電気柵設置事業の補助金を継続するほか、「農作物有害鳥獣駆除対策事業補助金」を増額して駆除に努めてまいります。

観光振興については、国内観光客やインバウンドの誘客促進のため、ツアー商品造成などを町観光物産協会に委託し、地域経済の活性化を図ってまいります。

知名度を生かした観光まちづくりの強化に取り組み、地域の魅力を再発見し、貴重な地質や文化・歴史を感じることのできるジ

オサイトを含めた地域資源を活用しながら、観光と農林業、地場産業との連携を図りながら進めてまいります。

遠刈田伝統こけし工人の後継者育成のため、国の地方創生推進交付金を活用し、平成28年度から「未来へつなぐ伝統産業活性化事業」に取り組んでおり、引き続き、工人の育成、新商品の開発・販路拡大など、伝統産業の振興を図ってまいります。

企業の誘致を進めていた「白石ポリテックス工業株式会社」が今年1月から業務が開始されたところでありますが、今後も地域振興と雇用確保のために、蔵王の地域資源を生かす企業の誘致等を図ってまいりたいと考えております。

ふるさと納税制度については、積極的に活用し、情報発信の強化や地域産業の活性化を図ると共に、町の取り組みに共感していただく寄附者を増やしていけるよう取り組んでまいります。

#### 共に創るまちづくり（町民参加・安全・行政運営）

次に、共に創るまちづくりであります。町民、企業、自治組織などと行政の協働によるまちづくりを発展させてまいります。

防災・減災対策については、風水害や地震、火災など各種災害を想定した対応が求められているところであり、町民の安全・安心を守っていくためには、「自助」、「共助」、「公助」の精神に

基づき、行政と町民の皆様が役割を分担し、助け合う必要があると考えております。

自主防災組織については、現在13行政区で組織されておりますが、防災訓練の実施や資材の整備などの支援を行いながら、さらに設立の加速化を進めてまいります。

地域の防災力確保の要である消防団員の確保と団員の安全対策として、蛍光塗料付きの雨衣を支給するほか、施設整備については、小型消防ポンプ積載車（曲竹南班・沢内第2班）の更新を行ってまいります。また、消防団や交通指導隊、防犯実導隊と連携を図りながら、安全・安心なまちづくりを進めてまいります。

自然災害や火災発生時における情報を、住民や観光客に速やかに伝達する「防災サイレン・スピーカー」については、これまで、遠刈田温泉街や小妻坂地区、鬼石原地区、新地東裏山地区の4箇所を設置したところでありますが、30年度では永野地区と宮地区にそれぞれ設置することとし、防災体制の強化を図ってまいります。

財政健全化に向けては、次代を担う子どもたちに、過大な負担を残すことにならないよう、将来を見据えた財政運営を進めていきたいと考えております。

30年度においても、歳入となる町債の発行については、将来

の実質的な財政負担等も考慮しながら、適正水準を維持していくことにしております。

## 5 結びに

以上、平成30年度を迎えるにあたり、私の町政運営に関する基本的な考え方などを申し述べ、施政方針といたします。

町民の皆様並びに議員の皆様の一層のご理解とご協力、そしてご支援を心からお願い申し上げます。